作品に想いを込めて

からオンリーワ品を出展してい 掃活動にも参加しました。展示場「芸術村」開催にあたっては、学校の 今回の芸術村にドライフ 切にしています。の魅力をそのまま表現するこ ワンをめざい いる三國さん。 、作品に使 ラ 日ごろ ワ

思ったそうです。お花いっぱいで飾ってあげよう」といを大事にしたい。この用具入れをたものかな」と思い、「この子たちの想 やったんやな。閉校になる前に書い「これを書いた子はこの学校が好き目に飛び込んできます。三國さんは「あんがとう(ありがとう)」の文字が 具入れを開けたとき、「大好き余呉小」 清掃活動にも参加しま 心ったそうです。 「でなく芸術を始める人の起点とな三國さんは「ここが余呉に住む人だ たなる教室の片隅にあった掃除用掃活動にも参加しました。展示場

ば」と話し、今後の利活用に期待をでなく芸術を始める人の起点とな

.....

の当たりにし、

ますます夢が膨らみ

ま

サポートにあたっていま力を得ながら、全力で子



▲三國さんが見つけた掃除用具入れの文字

芸術を核としたまちづく により、また一 こう した地域を愛す つ生命が吹き込ま 'n が始ま たち 0

ドライフラワーコーディネーター 三國 佳未さん(余呉町下丹生)

生徒のための寄宿制自立支援施設と旧丹生小学校。現在は、不登校児童・廃校後、8年以上の月日が流れた

して活用されています。

構想を語っていたで前には川があ

があって…」と、よく夢

たそうです

10時~16時

●ところ 余呉地域各所

-(6)

※中学生以下は無料。販売窓□は旧余呉小学校・全長寺・茶わん祭り の館・ウッディパル余呉

問 NPO法人芸術村IN余呉実行委員会

HP http://kohokusuigen.net

「ここから」理事長

り受けるこ

とに。「ここ

唐子 恵子さん (余呉町上丹生)

小学校を借り、旧丹生 の余呉町の の余呉町の

の決

趣旨に対し、開校

賛同

した当

時

準備をす

余呉まるごと里山芸術村2013 ●と き 10月26日(土)~11月4日(月·休)

●チケット販売 パスポート料金 1,000円 (1ドリンク付)

☎86-8037

丹生小学校との出会い



月にオープンしたばかりですが、口コる場にしてもらうことです。 昨年12の人たちが気軽に集まって交流できとすること、そしてもう一つは、地域とすること、そしてもう一つは、地域り、一つは子どもたちの就労体験の場 と、それを聞きつけた地元の人が手伝と、それることに感謝している」といいまを譲るなど、温かい支援の手を差し伸べて人や子どもたちと関わりをもった人たちが、温かい支援が後を絶ちまな話。をは寒かろうと薪をそっと置いに、また「もう使わないから」と家具いに、また「もう使わないから」と家具と、それることに感謝している」といいました。 こ。 冬は寒かろうと薪をそっとせん。 冬は寒かろうと薪をそったいて帰る人も。 唐子さんは、「地元は、「地元いて帰る人も。 唐子さんは、「地元は、「地元いて帰る人も。 とまかる る緑の旗が、開店の目印です たちが発案し校舎の壁から垂れ下がチを安価で提供しています。子ども 笑顔が集う「Coco し、毎週土曜日にモ 階ではコミュニティカフ ーニング cafe ノやラン

のはできるだけそのままの状態で残造りや卒業生の思い出がつまったもよう必要な範囲だけにとどめ、当時のもたちが安全・衛生的に生活を送れる

しています。老料が常備され、

老朽箇所の補修は、子ど

いつでも使える状態に

屋として利用し、どの部屋も道具や材 物、ガラス細工、陶芸などを行える部

行っています。2世生きる勇気を取り

2階部分は木工や織り戻せるよう支援を

気を失っている子どもたちが自信と活を通して様々な体験活動を行い、元

広がる支援の輪

「ここから」では4

泊5日の寄宿生

い、元

してい のはで っ

に囲炉裏をつくろうと検討しているとけ込んでいきました。校舎の一角交流が増えるにつれ少しずつ地域にらず地域に認知されていなかったたらず地域に認知されていなかったた

▲「Coco cafe」でランチを楽しむ人たち

▲教室を織物(上) や陶芸(下) の部屋として使用

地域に息づく存在

Coco cafe 11月のご案内 (ランチのみ)

※今月はイベント等の関係で、毎週ではありません。

余呉町上丹生1570 ☎86-3578

HP http://cocokara.2008.com/

各土曜日 11時~ 14時30分

・和食または洋食(500円;飲み物付き) ・ドリンクとサブレ・ケーキセット(300円)

ウォームアップスクール[ここから]

既に50人近くが「ここから」から学 を連れて訪れる卒業生や、「車が好 人を連れて訪れる卒業生や、「車が好 きだ」と言っていた子が自動車整備士 となり、スポーツカーに乗って唐子さ となり、スポーツカーに乗って唐子さ んに会いに来るなど、「ここから」に在 学していたことを隠すことなく、ここ で過ごした時間や仲間、思い出を、む しろ誇りに思っているそうです。

旧丹生小学校 ●日時 11月9日・23日・30日

問 NPO法人子ども自立の郷

長に大きな影響を与えているのです。り、人とのふれあいが子どもたちの成の人が共感し関わりをもつようになを介して、「ここから」の取組みに多く討するなど、廃校となった地域の学舎 番を待つ人の姿ふ。ミで徐々に広がりる 「近くに仲の良い友人とゆっくり過ご番を待つ人の姿も。利用した人は、ミで徐々に広がり、多い日は入口で順

と存在感を と存在感を と存在感を



た際は、学校を見てから帰る人も。旧丹生小学校の卒業生たちも、帰省 また、今は地元を離れ生活 して 1) る

きく包み込み、多くの人々にとっっても、学校は人々の想いや願い時代の移ろいとともに用途は ま てを変

心の拠り所となっていまれるく包み込み、多くの人わっても、学材に

▲「ここから」が活動する旧丹生小学校 (余呉町上丹生)

一歩がまさ

いこと、信じることをすぐに実行できおうになり、いつしか「自分がやりた復帰を促すには、公の機関の枠組みを復帰を促すには、公の機関の枠組みを関わる中で、悩みや不安から子どもた関わる中で、悩みや不安から子どもた

丹生小学校の新たな役割 と思うようになりました。カる環境で子どもたちと向き合

そして丹生小学校との出会いが訪れます。体験学習でウッディパル余は優しいピンク色の壁に「健やか丹は優しいピンク色の壁に「健やか丹性っ子」の文字が並ぶ古い学校が目に飛び込んできました。突然チャイムが描いていたとおりの理想の環境を目れていたとおりの理想の環境を目がある。 B 山セ 広報ながはま 2013年11月 4

た